

學大科法學大國帝都京

叢論濟經

號六第 卷六第

行發日一月六年七正大

論說

生命保險業者ノ保健運動……………法學博士 財部 靜治

植民地統治ノ形式ニ就キテ……………山本美越 乃

分業ヲ論ジテ福田博士ノ教ヲ請フ……………文學士 高田 保馬

所得稅ニ於テ所得ノ統一課稅……………法學博士 神戶 正雄

職工組合論……………法學士 海田 嗣郎

露國ノ新まりるくす主義……………法學士 米田庄太郎

諾威ノ海運……………法學士 小島昌太郎

時事問題

米價ノ調節……………法學博士 戸田 海市

雜錄

元祿年間貨幣改鑄ノ由來……………藤田 元春

戰費トハ何ゾヤ……………法學士 小島昌太郎

赤穂ノ鹽田……………法學士 本庄榮治郎

戰費トハ何ゾヤ

小島昌太郎

今次ノ大戰勃發以來、戰費問題ニ關シ公ニセラレタル論著ノ中、けむぶりつぢ大學經濟學教授 Pignon 氏ガ著シタル The Economy and Finance of the War ン、最モ注目スベキモノノ一ナリト認メラルルガ故ニ、此ニ其前半 A discussion of the real costs of the war ノ大意ヲ紹介シ、後半 A discussion of the way in which they should be met ニ當ル部分ハ、後日更ニ本誌ヲ藉リテ之ヲ抄譯スベシ。

ひ氏ノ所謂 costs of the war ヲ邦語ニテ戰費ト譯スルハ多少不適當ノ觀アリテ、寧ロ戰爭ニ因ル國民經濟上ノ損失若シクハ國富ノ損失ト言フ方、眞意ヲ傳フルニ近カラシカト思ヘドモ、暫ク慣用ノ譯語ニ從フ。偕テ、氏ノ説ク所ニ據ルニ、英國ニテ cost of the war ト謂ハルルモノニハ、政府豫算ニ計上サレタルモノノ外、敵ノ戰鬪行為ニヨリ破壊セラレタル私有財産、通

商社絶ニ因ル損害、戦没戦傷人員ノ生産力喪失等ヲ含ムト言フコトデアルガ、氏ガ此ニ論ズル所ハ單ニ政府支出及ヒ大藏省豫算ニ關係ヲ生ズル費用 costs that come into relation with governmental expenditure and the Chancellor of the Exchequer's budget ノシニ就キテ之ガ本體 what they mean and imply ハ抑モ如何ナルモノナルカト云フコトデアル。

一九一五——一六年度ニ於テ英國政府ガ戰爭目的ノ爲メニ要求セントスル金額ハ十三億磅デアツタ。(氏ガ本論ヲ起草シタル際ニハ、未ダ之ハ確定豫算トナツテ非ナカツタト見ユル。)此ノ十三億磅ナルモノハ戰費金額 money costs of the war ト云フベキモノデアル。然ルニ世間ニハ此ノ十三億磅ノ金額ヲ以テ直ナニ前掲年度ニ戰爭ノ爲メ消盡セラレタルモノナリト見做ス人ガアル。カカル見解ヲトル人ハ、又往々、政府ガ一磅紙幣ヲ十三億枚作りサエスレバ、ソレニテ戰費調達ノ問題ハ萬事解決スルト云フ様ナ議論ヲスル。乍併、所謂十三億磅ナルモノハ、單ニ戰爭ノ爲メニ消盡セラレタルモノノ價格ヲ言ヒ

表ハスニ過キズシテ、消盡セラレタルモノノ本體デハナイ。戦争ノ爲メニ本當ニ消盡セラレタルモノハ、人ヤ機械ヤ材料等ノ働キ services デアル。詳言セバ(一)陸海軍々々ノ勞務、(二)軍需品製造ニ従事スル人々ノ勞務并ヒ之ニ用キラル機械ヤ材料ノ働キ、(三)軍用船車ノ働キ及ヒ之ヲ運用スル人々ノ勞務、(四)傷病者救護機關ノ人の并ヒニ物的ノ働キ、(五)戦争ノ爲メ平時需要ニ超過スル所ノ衣食品調達ニ要スル働キ、及ヒ(六)英國ガ殖民地并ヒニ與國ニ貸附ケタル資本ヲ以テ、彼等ガ調達シ得タル所ノ前掲同種ノモノ等デアル。

此ニ所謂戦争ノ爲メニ消盡セラレタルモノ things absorbed for use in the war ト戰費 real costs of the war トハ又之ヲ區別シテ考ヘナケバナラス。戦争ノ爲メニ消盡セラレタルモノノ中ニハ、戦争ノ爲メニ特ニ生ジタルモノアリテ、之等ハ若シ戦争ナカリセバ全然生ジナカツタモノデアル。例ヘバ軍人ヤ軍需工業従業者ノナス様ナ特殊ノ勞務ノ如キハ此種ノモノデアル。眞

ノ戰費トハ戦争ノ爲メニ消盡セラレタルモノヲ謂フニアラズシテ、戦争ノ爲メニ消盡セラルルモノヲ作ルガ爲メニ他ニ缺ケタルモノヲ謂フ。The real costs of the war to the nation consist not in the things that are actually absorbed in the war, but in the things—including the leisure of some of its workpeople—which the community has to do without in order that these things may be provided. 例ヘバ一億ノ砲彈ヲ作ルノ戰費トハ、實際之ヲ製作スルノ働キニアラズシテ、之ガ製作ニ關與シタル人ヤ機械ガ、若シ戦争ナカリセバ他ノ用途ニ於テナセシ働キデアル。故ニ一九一五年度ノ英國戰費ハ、十二億磅ヲ以テ調達シタル前掲各種ノ人又ハ機械ノ働ガ、若シ戦争ナカリシナラバ、平和的産業ニ於テ英國民ノ爲メニ作リシモノノ總體デアル。或ハ戦争ノ爲メニ消盡セラレシモノト戰費トノ區別ハ外見のノモノニテ、全ク實用ナキ區別ノ如クニ見ユルカモ知レヌガ、併シ之ハ實際上極メテ重要ナル區別デアル。故ニ以下此區別ヲ觀過セシ論者ガ

往々陥ル誤解ニ就イテ批評ヲ下シ、以テ戰費問題ニ關スル正確ナル理解ヲ促サント欲ス。

先ツ最モ單純ナル誤解ハ戰費ノ國民所得ニ對スル割合ニ關スルモノデアアル。前述ノ如ク一九一五年度ノ英國戰費ハ十三億磅デアアルガ、之ヲ戰前恒常ノ國民所得二十三億磅ト比較シテ、戰費ハ國民所得ノ二十三分ノ十三ナリト速斷スル人ガアル。カカル比較ハ開戰以來英國ノ物價ガ平均約四割騰貴セシコトヲ見逃シタモノデ、正確ナル比例ヲ見出サント欲セバ、此ノ物價騰貴ヲ計算ニ入レナケレバカラヌ。然ルトキハ其割合ハ二十分ノ十三トナルデアラウ。

或ハ、國民所得ヲ産ミ出ス人々ガ兵士ヤ軍需工業労働者トナリテ普通産業ヨリ去リタルガ故ニ、國民所得ハ甚ダシク減退シタト云フ見地ヨリ、戰費ノ國民所得ニ對スル割合ハ、戰前ノ所得ヲ基礎トセバ二十分ノ十三ナランモ、今日ノ實際ニ於テハ、之ヨリモ大ナル割合トナツテキルトノ説ガアル。此説ニヨレバ、眞ノ戰費ハ此ノ十三億磅ニ値打チスル所ノモノニ加フルニ、

現在軍事ニ從事セル人々ガ、若シ平時ナリセバ國民所得ニ加ヘタリシ所ノモノヲ算入セネバナラヌコトトナルデアラウ。乍併之ハ大ナル誤解デアアル。多數ノ労働者ガ普通産業ヨリ奪ハレタトシテモ、ソノ場合ニハ、(社會ト政府トヲ分離シテ考フルナラバ)、社會ガソレダケノ人ノ働キヲ失ツタト云フベク、若シクハ(社會ノ中ニ政府ヲ含メテ考フルナラバ)社會ガソレダケノ人ノ働キヲ、私用ヨリ公用ニ移シタト云フベキデアアル。若シ社會ガソレダケノ人ノ働キヲ失ヒテ之ヲソノ公用ニ移シタリト云ハバ、同シモノヲ二重ニ勘定シタコトトナルデアラウ。之ハ一私人ノ例ニ就イテ見レバ極メテ明ナル事柄デアアル。例ヘバ二千磅ノ所得ヲ有スル人ガ、其中ノ一千磅ヲ以テ自動車ヲ購ヒタリトセバ、彼ハソノ所得ノ中一千磅ヲ此ノ購入ニ充テタリト見ルベク、若シクハソノ所得ガ此ノ購入ニヨリテ一千磅減ジタリト見ルベキデアアル。若シ此ノ場合、彼ガソノ所得ノ中一千磅ヲ自動車ノ購入ニ充ツルト共、ソノ所得ハ一千磅減ジタリト見ルナラ

バ、人皆ソノ見解ノ粗糲ナルヲ笑ハン。何トナレバ、吾々ガ、彼ハンノ所得ノ中一千磅ヲ自動車ノ購入ニ充テタリト云フトキニハ、ソノ所謂所得ハ購入以前ノ二千磅ノ所得ヲ目安ニ置クノデアツテ、購入ニヨリテ減ジタル後ノモノヲ謂フノデナイカラデアアル。戰費ノ國民所得ニ對スル關係モ全ク之ト同様デアアル。此ノ場合ニ國民所得トシテ目安トナルモノハ、戰費ヲ支出スル源タル所得、即チ二十三億磅——若シクハ物價騰貴ヲ考慮シテ計算セラレタル三十億磅——ノ所得デアラネバナラス。而モ此ノ場合ニハ、戰前普通產業ニ從事セザリシ人々ガ今日ナス所ノ大ナル働キハ之ヲ算入シテキナイ。若シ之ヲ算入スルナラバ國民所得ハ寧ロ戰前ヨリ増加シテキルカモ知レナイ。 附言、本論紹介者ハ此ノ點ニ關シテトナレバ、氏ハ現在ノ戰費ノ現在ノ國民所得ニ對スル割合如何ト云フ問題ト、現在ノ戰費ノ戰前ノ國民所得ニ對スル割合如何ト云フ問題トヲ混同シテキルカラデアアル。現在ノ國民所得ト戰前ノ國民所得トハ若シ同額ナラバ、此ノ二問題ハ結局一ニ歸スベシト雖モ、而モ之ヲ同一問題トシテ取扱フニハ、ソノ同額ナルコトヲ先ツ論證シ置クノ必要アリ。

徴兵制度ヲ採用セル獨逸ハ英國ヨリ戰費少

ク、又特別手當ノ支給ヲ受クル有妻兵ハ之ヲ受ケザル獨身兵ヨリモ國家ニ對シ大ナル戰費ヲ負擔セシムルモノデアルト云フ様ナ論ハ新聞紙等ニ常ニ見ル所デアアル。斯クノ如キ論ハ一定ノ兵數ノ下ニアリテハ、戰費ハ兵士手當額ニ比例スルト云フ見解ニ基クモノデ、從ツテ其所謂戰費ハ戰費金額ノコトニシテ眞ノ戰費ヲ指スノデハナイ。若シ兵士等ガ手當トシテ、ソノ平時普通ニ儲クル所ヨリモ多額ヲ受クルナラバ、ソノ差額ダケハ社會ノ富 *resources* ガ他ノ人ヨリ彼等ニヨリ多ク移ツタノデ、又若シ平時ノ儲ヨリ少額ヲ受クルナラバ、反對ニソノ差額ダケ彼等ヨリ他ノ人ニヨリ多ク移ツタニ過キヌ。眞ノ戰費タルモノバ、何レノ場合ニ於テモ、國家全體トシテ見レバ、増減アルコトナク、若シ戰爭ナカリセバ彼等ガ平和ノ產業ニ於テナシタリシ生産的働キノ額 *sum of the productive services* デアル。故ニ兵士手當額ノ多寡ハ眞ノ戰費ノ多少トハ直接ノ關係ハナイ。

戰時ニ於テ政府ガ國費ヲ濫費スルハ、戰費ヲ

増大スルモノデアルト云フ批難モ亦屢々聞ク所デアル。國費ノ濫費ハ如何ナル場合ニ於テモ慎ムベキコトナルハ言フ迄モナキ事柄デアルガ、乍併此ノ濫費ガ戰費ヲ増大スルト云フ見解ハ必ずシモ正鵠ヲ得タルモノデハナイ。所謂濫費トシテ指摘セラルルモノニハ、國會議員ニ對シ年額四百磅ノ手當ヲ支給セルコト、獨逸新聞紙翻譯費トシテ一部ノ人士ニ一千二百磅ヲ支給セルコト、軍需品納入者ヤ軍需工業勞働者ニ不當ニ巨額ノ支拂ヲナセルコト、甲地ヨリ乙地ヘ巨費ヲ投シテ輸送セル軍隊ヲ再ビ甲地ニ逆輸送ヲナスコト、無効ノ砲彈ヲ非常ニ多數製作セシコト等ガ數ヘラレテキル。之等ハ國庫ノ金額支出ノ上ヨリ云ヘバ勿論何レモ同一種類ノモノデ、歲入増昂ノ必要ヲ促ス原因デアル。乍併、國家全般ヨリ見レバ、此等ノ濫費ハ之ヲ二種ニ分ツテ觀察セネバナラヌ。無効砲彈ノ製作、軍隊ノ逆輸送ノ如キハ眞ニ國富ノ浪費デアルガ、或人ニ對シ其勞務價值以上ノ支給ヲナスハ——勿論好マシカラヌコトタルニハ相違ナイガ——國富

ノ本當ノ浪費トハ言ヘナイ。何トナレバソノ受領者ガ外國人ニアラザル限り、政府ハ此ノ場合ニ於テモ、國家一部ノ人士ニ對シ、他ノ一部ノ人士ノ損失ニ於テ國富ノ移轉ヲナシタルニ過ギナイカラデアル。從ツテ此ノ後者ハ眞ノ戰費ヲ増大スルモノデハナイ。故ニ國費支出ノ任ニ在ル人士并ヒニ世ノ批評家ニ望ム所ハ、國費濫費ノ謹慎モ固ヨリサルコトナガラ、之等ハ戰時非常ノ場合ニ於テハ到底免レザル事柄ナレバ、寧ロ、如何ナル支出ハ國富ノ浪費トナリ、如何ナル支出ハ然ラザルカラ能ク辨別セラレンコトデアル。

但シ誤解ヲ避クル爲メ更ニ一言スベキコトガアル。兵士其他ノ人々ニ對シ巨額ノ支拂ヲナスコトハ、國家全體ヨリ見レバ、國富ヲ大藏省ヲ通シテ國民ノ一部ヨリ之等ノ人々ニ移轉スルニ過キズ、且ツ此ノ移轉ハ單ナル移轉タルニ止マリ、直接ニ戰費トシテ國富ノ減少ヲ來スモノニアラズト言フト雖モ、之ヨリシテ直チニ、カカル移轉ハ全ク國富ニ何等ノ影響ヲ及ボスモノニ

アラズト速斷スベカラザルコトデアル。若シモ政府ノ手ニヨリテ國富ノ移轉ヲ受ケタル人々、即チ兵士、軍需品納入者、軍需工業勞働者等ガ之ヲ不生産的ニ浪費シ、且ツ政府ガ之ヲ國債ニヨリテ調達シタルモノナラバ、此移轉ハ間接ニ有用ナル國富ヲ無駄ニ消盡シタルコトトナリ、從ツテ我富力ヲソレダケ薄弱ナラシメタルコトトナル。之ハ實際上ニ於テハ極メテ重要ナル事柄ナレバ、之ニ關シテ誤解ナキヲ望ム。